2017年6月13日(火)　しゅっぱんじぎょういいんかいしんぶん「かひひょうほ」　号外

岐阜県小中学校長会
出版事業委員会
2017.6.13 号外
夏(冬)の友・生活
ひとりだち
基本日本語の表記
岐阜県ふるさと散歩

良質で安価な読み物を子どもたちのもとへ

岐阜県小中学校長会・出版事業委員会では、本年度も児童生徒の心豊かに生きる力を育む図書を発行していきます。教育の場に生かすことができるように推進していきますので、皆様のご理解・ご協力をお願いします。

本委員会の方針は次のものです。

〝児童生徒の豊かな感受性を育み、創造性を培うために、時代に即した出版物の在り方を検討し、事業を推進する。〟

ご存知のように出版物は、「夏(冬)の友」「夏の生活」「ひとりだち」「基本日本語の表記」「岐阜県ふるさと散歩」があります。これらの出版物を、県内のいくつかの学校では、校内に展示されたり、集会で紹介されたりするなど、積極的に啓発に取り組まれており、感謝しております。

また、7月に「ふるさと散歩・第2集」を発行します。

7月発行
岐阜県ふるさと散歩

夏・冬の友　夏の生活

◇編集のポイント

学習指導要領に配慮した編集内容

(夏の友)親子での豊かな生活体験を願ったガイドブック。題材を選択し、主体的に活用できるように編集。研究や作品作りに役立つ豊富な作品例。頑張ったこと、楽しかったこと、感動したことに気付かせるよう配慮。

(冬の友)冬から春の暮らしを充実させるガイドブック。興味・関心をそそる身近な素材で企画構成し、親しみやすく、主体的に活用できるよう編集。家庭や地域行事の紹介と体験のすすめ。環境、食育など今日的課題に配慮し、身近な体験のすすめや読み物を掲載。

(夏の生活)豊かな生活体験を願い、心豊かでたくましい生き方を願ったガイドブック。情報社会への対応。研究や作品の実践例を豊富に紹介。教科学習内容の精選と充実。

◇昨年度は

夏(冬)の友は採用学校率が100%、夏の生活は90%を超えており、採用児童生徒率も微増・微減を繰り返しながらも高まりつつあります。夏の生活では郷土領域20ページをカラー印刷に変更するなどの改善を行いました。

◇今後は

「ぜひ活用したい」と感じられる内容にまで内容の質を高める努力を継続していき、これまで以上に児童生徒の実態に即した、興味や関心に応える編集に重点を置いていきたいと思っています。

H28年度・第52回「冬の友・はがき版画コンクール」特選
『たのしかった　ふくわらい』
安八郡　南平野小学校　一年　名和水鏡

ひとりだち

◇編集のポイント

高校へ、社会へと進む中学生たちが、やがてぶつかるであろう課題や困難を自主的に解決し、ひとりだちしていくことを願って編集された読み物。国際化社会、福祉社会、ボランティアなど「共に生きる」社会に生きる中学生へのメッセージ。海外日本人学校経験者や多くの先輩方からのメッセージ。

◇昨年度は

第11版を発行し、前の版の半数以上を差し替えました。学習障がいというハンディを乗り越えて夢であった教職に就いた教師の言葉や、東日本大震災の被災地を訪れたことで自身の夢を見つめ直した中学生の手記など、これまで以上に心に響く作品の掲載に心がけました。

◇今後は

「人生の道しるべ」として卒業後も手元に置きたくなるような小冊子を目標に、編集・内容の充実を図っていきたいと思います。

基本日本語の表記

◇編集のポイント

用字用語の表記を、豊富な用例と併せて示した実用辞書。改定常用漢字表に準拠。用字用語編、表現編、漢字編・資料を収録。

◇昨年度は

昨年2月に第4版へ改訂版Vを発行しました。「取り組みと取組(※)」など20を超えるコラムを加えました。私も、この新聞を作成する際、手元に置いて活用しています。また、日教弘岐阜支部から県内新規採用教員に贈呈されたり、卒業記念品として採用されたりしていただいております。

◇今後は

テーマを設けた別冊の発行や複数の別冊の製本計画等も考えていきたいと思っています。

(※)「取り組みと取組」

改定常用漢字表の本則によると「取り組み」であり、教育の場では、「取り組み」と表記する。「送り仮名の付け方」では、活用がある語は、活用語尾から送るのが基本だが、読み間違えるおそれのない場合には、送り仮名を省くことができる。そのため公用文では、許容を適応して送り仮名を省き「取組」と表記することになっている。

岐阜県ふるさと散歩

◇編集のポイント

岐阜県の豊かな自然、引き継がれてきた文化、芸能、それらを伝える施設などを岐阜、西濃、美濃、可茂、東濃、飛騨の6地区に分けて題材を選び紹介。地図を入れ、公共交通機関などの行き方を記載。第1集は平成27年7月に、「読んだ児童生徒が、その場所に行ってみたくなる書籍」という願いを込めて発行。

◇昨年度は

「今年の夏休みには、紹介してある場所を、親と一緒に見て回った」という小学生も現れました。また、年齢の高い方々の集会で『ふるさと散歩』を紹介すると、購入希望者が確実にあり、中には「これ(第1集)は持っとる。次はいつ出る？」と問われることもありました。小中学生のみならず、幅広い年代から高い評価を得ております。

◇今後は

7月に第2集を発行！

今後も、良質で安価な読み物を子どもたちのもとへ届けられるよう努力していきます。

散歩に行こう！

今回、発行する「岐阜県ふるさと散歩・第2集」では、50カ所以上の散歩に出かけます。また、「岐阜の工芸品」「揖斐川水系のダム」「B級グルメ」「岐阜の名城」などの特集コーナーもあります。

それでは、少し散歩に出てみましょうか。

シティ・タワー43から岐阜の街を見おろし中山道鵜沼宿を訪ね、山県のふれあいバザールでちょっと一息。富有柿発祥の地を見学し、根尾谷断層で自然の力に圧倒され、伏屋の獅子舞を堪能する。

墨俣一夜城・千本松原で歴史にふれ、関ケ原歴史民俗資料館で当時の生活を知る。伊吹山のお花畑でおいしい空気を吸ったあと、徳山ダムで水の底の街並みを想う。

板取街道・アジサイロードを進み、阿弥陀ケ滝に心を打たれ、國田家のお花畑で心を和ます。

日本昭和村(ここはマラソンで走ったな…)でノスタルジーな思いに浸ったあとは、猿啄城展望台から日本ラインを望む。どこかにツチノコはいないかと探していたら、みたけの森まで来てしまう。

現代陶芸美術館で高尚なものを見たあとは、クリスタルパーク(ここもマラソンで走ったな…)で一滑り。鉱物博物館で水晶さがし。

禅昌寺で厳粛な趣を感じたあとは、宙ドーム神岡でニュートリノ・宇宙の神秘を体感する。アニメの聖地、白壁土蔵のある町並みに立ち寄って、散歩のしめくくりは奥飛騨温泉郷、極楽極楽。

編集後記

出版事業委員会の取り組みについて、パソコンを使って説明すれば、もっと分かりやすく皆様にお伝えすることができるのでしょうが、そういう機器の扱いやプレゼン作成が不得手な私は、手書きの新聞というアナログな形でお伝えすることにしました。

数年前に目の手術(網膜剥離)をしてから、細かな字が書きづらくなってしまい、字形も定まらず、読みづらい部分が多々あったと思います。

大きな4つの出版物について、「編集のポイント」「昨年度は」「今後は」の3つの窓からまとめてみました。また、今年の大きな目玉である『岐阜県ふるさと散歩』については、自分も楽しみながら、ちょっとした囲み記事にしてみました。

良質で安価な読み物を子どもたちのもとへという願いをご理解いただき、今後も採用にご理解・ご協力をお願いします。